

第63回全日本バレーボール高等学校選手権大会 愛知県決勝大会

男子の部

星城高等学校 3	<table style="margin: auto;"> <tr><td style="padding: 2px 10px;">25</td><td style="padding: 2px 10px;">-</td><td style="padding: 2px 10px;">18</td></tr> <tr><td style="padding: 2px 10px;">23</td><td style="padding: 2px 10px;">-</td><td style="padding: 2px 10px;">25</td></tr> <tr><td style="padding: 2px 10px;">27</td><td style="padding: 2px 10px;">-</td><td style="padding: 2px 10px;">25</td></tr> <tr><td style="padding: 2px 10px;">25</td><td style="padding: 2px 10px;">-</td><td style="padding: 2px 10px;">14</td></tr> <tr><td style="padding: 2px 10px;">-</td><td style="padding: 2px 10px;"></td><td style="padding: 2px 10px;"></td></tr> </table>	25	-	18	23	-	25	27	-	25	25	-	14	-			1 大同大学大同高等学校
25	-	18															
23	-	25															
27	-	25															
25	-	14															
-																	

スターティング・メンバー

佐藤(孝) (1年)	徳尾 (3年)	木村 (2年)
藤原 (3年)	濱田 (3年)	イリヤシェンコ・ イーゴリー (1年)

リベロ: 鈴木(3年)、横井(1年)

スターティング・メンバー

久田 (3年)	牛嶋 (1年)	川口 (3年)
山口 (2年)	伊藤 (3年)	加藤 (2年)

リベロ: 小林(3年)、春日井(1年)

【男子戦評】

星城高校が大同大学大同高校を退け、この形となって初めての優勝校となった。
 勝利を招いたのはオポジットの徳尾で、この試合30得点以上を上げた。
 特に第4セットは、中盤の連続アタックポイント、あるいは連続サービスエース、果ては2つのブロックポイントを奪うなど、獅子奮迅の大活躍を見せた。
 また、彼のよいところは、多くのプレーを全力で行うこと、全力で打つ場面が多くてもミスがほとんどないこと、リードされた場面でも常に冷静にプレーしキャプテンシーが発揮できるところにあった。

対する大同高校にも勝機はあった。
 互いに10本近いミスでセットを落とし1-1で迎えた第3セット、24-22と最初のセットポイントをつかんだのは大同高校だった。
 しかし、星城高校徳尾のスパイクと藤原のブロックでデュースに追いつかれると、25-25からも藤原にアタック、ブロックを連続して決められ、セットを失った。
 この第3セット終盤の攻防が、この試合のターニングポイントであった。
 (作成者: 富田 崇)

第63回全日本バレーボール高等学校選手権大会 愛知県決勝大会

女子の部

	25	-	22	
人間環境大学	22	-	25	
岡崎学園高等学校 3	25	-	19	
	25	-	17	
	-			
				1 豊橋中央高等学校

スターティング・メンバー

飯田 (3年)	楠木 (2年)	星野 (3年)
加藤 (2年)	香川 (3年)	横田 (2年)

リベロ: 臼井(3年)、武馬(1年)

スターティング・メンバー

石橋 (3年)	森本 (1年)	加藤 (3年)
松本 (2年)	三浦 (3年)	山本 (3年)

リベロ: 城所(3年)、谷川原(1年)

【女子戦評】

人間環境大学岡崎学園高校が高さを生かしたプレーで豊橋中央高校を退け、優勝を飾った。岡崎学園高校の1セット目のブロックポイントは7本、大きな壁として立ちはだかった。序盤で相手の速攻を封じ、時間差攻撃に対しても2枚ブロックがきっちり立ちはだかった。21-21まで追いつがった豊橋中央高校だったが、最後まで飯田と香川に連続してブロックポイントを決められた。しかし、第2セットは豊橋中央高校が石橋の活躍でセットを取り返した。石橋はレフトサイドからクロスへの強打を軸に攻撃した。また、中盤にはチーム初となるブロックポイントを決めた。22-22から相手に1点も取らせず、24点目も石橋が2本目のブロックを決めた。3セット目は中盤まで豊橋中央高校が17-15とリード。しかし、18-18の場面で岡崎学園高校の加藤が打点の高いアタックを見せると、そこから主導権を握った。石橋が後衛のローテーションのため1点しか取れなかった豊橋中央高校に対して、岡崎学園高校は星野の2本連続アタックを含む3連続得点などで25点まで一気に走った。第4セットは第1セットの再来、6本のブロックポイントを奪った岡崎学園高校が、粘る豊橋中央高校を振り切った。このセットから代わって入った磯部が、セット序盤にブロックやスパイクでリズムを作った点も印象的であった。(作成者: 富田 崇)